

# TMIの影響にも言及

## エネルギー白書 過去の25事例を考察

政府は十四日、一二年度のエネルギー白書を閣議決定した。法令に基づき、エネルギーに関して概ね直近一年程度に講じた施策について取りまとめ、世界のエネルギーを巡る過去事例に対する考察を述べ、今後の政策構築に向けての視座を得ることに努めている。

今回、過去事例として、計二十五例が取り上げられているが、原子力事故は「原子力発電設備の伸びが、七〇年代には年平均で約二・三だったのが、八〇年代は同約九％、九〇年代は同〇・六％に留まったことを示し、事故が、原子力発電の新設の伸長を抑える要因」となっている。

## 松浦代表、続投の意

### 原安進 設立後、初の総会開催

澤昭裕・二十一世紀政策研究所 主幹/国際環境経済研究所所長による「いま何を議論すべきなのか? エネルギー政策と温暖化政策の再検討」と題する講演会が十二日、東京都立大学で行われた(II写真)。

原子力の捉え方が世代によってかなり違つてをふまえ、主に学生向けに、これまでの日本の発電力量の推移などを解説した上で、将来のエネルギー政策を考へるに際して、安定供給、経済性、環境性などの問題を提起し、意見交換を行った。

澤氏は、原子力を維持していくには、①日本の国力・国益・地域振興にとつて原子力が「特別に必要」との共通認識をもち官民一体で推進していくという明確な政治的意志、②長期安定的資金を確保しリスク費用を官民で分担するなど確実なファイナンス、③インベションを現場で継続的かつ積極的に導入する技術の新陳代謝の仕組みが必要とした。

また、事業者には原子力の信頼回復に向け、①組織力や人材力などハードウェアにとどまらない安全確保②コミュニケーション・技術の巨大さを自己認識したうえで発揮される自浄能力と自制心③国の安全基準は最低基準と認識し、事業者間で安全技術を新陳代謝してい



ついても、スリーマイル島事故とチェルノブイリ事故をあげ、発災の経緯、事故の影響などを解説している。その上で、世界の原子力発電設備の伸びが、七〇年代には年平均で約二・三だったのが、八〇年代は同約九％、九〇年代は同〇・六％に留まったことを示し、事故が、原子力発電の新設の伸長を抑える要因」となっている。

く工夫を求めた。質問を投げかける学生たちに対し、澤氏は、「原子力はチャレンジする価値のある分野」などと激励した。

原子力安全推進協会は十三日、設立後初めてとなる定時社員総会を開催し、一二年度事業報告、一三年度事業計画、理事選任等が満場一致で承認された。同協会は一二年十一月、福島原発事故を踏まえ、産業界による牽引・牽制機能の一層の強化を目指し、原子力技術協会の改組する格好で発足したが、新生当初から代表を務める松浦祥次郎氏は、今総会の冒頭、去る三日に任命を受けた日本原子力研究開発機構理事長の職と合わせ、現職を続投する決意を表明した。

議事終了後は、国政における重要施策の審議に数多く携わるJR東海会

## 原子力「全基廃炉を」と明記

### 福島県 復興・再生へ向け政府へ要望

福島県は十二日、復興・再生に向けた政府への要望書をまとめた。インフラ整備、除染の促進、損害賠償、避難者支援などに加え、原子力発電所の安全確保を、復興の前提として求めた。

福島第一原発事故の廃止措置に関するリスク管理の徹底や、関連の防災体制強化など、原子力災害被災者の実情を踏まえた対応を求めているが、県内原子力発電所について「全基廃炉を決定すること」と明記された。要望書は同日、佐藤雄平知事より、官邸内で、安倍晋三首相に手渡された。

震災から二年三か月を経て、国による法整備や施策・事業の推進にもかかわらず、県は、多くの課題に直面していることを冒頭に掲げ、今回の復興・再生要望では、原子力発電所の安全確保を、

## 原子力ワンポイント



### 日本の放射線・放射能基準

#### 1-福島第一原発事故(番外編23)

「内部被ばく」を議論する際には、通常「甲状腺等価線量」が使われます。一方、がんリスクに基づいて放射線防護基準を論ずる時には、「実効線量」が使われます。

これまでの新聞報道を見ると、二つを区別して報道された例は極めて少なく、人々に無用な誤解や不安を生じさせているように見えます。

## 被ばく線量の表し方は二種類あるので注意

「内部被ばく」を議論する際には、通常「甲状腺等価線量」が使われます。一方、がんリスクに基づいて放射線防護基準を論ずる時には、「実効線量」が使われます。

これまでの新聞報道を見ると、二つを区別して報道された例は極めて少なく、人々に無用な誤解や不安を生じさせているように見えます。

ともに、監視体制も強化するよう要望しているほか、トータル頻発に鑑み、汚染水全体の処理計画見直しを速やかに、県民への適時適切な情報提供により、不安を解消するよう訴えている。

### 海外よりチェルノブイリの知見

#### 除染シンポ

放射能除染に関する国際シンポジウム(環境放射能除染学会主催)が七日、東京・江戸川区のホールで開かれ、国内研究機関の他、ロシア、英国、米国からも登壇し、チェルノブイリ事故後の

森林汚染対策等に関する発表を受け、福島における効果的な除染活動に向け知見を深めた。

ロシアからは、サンクトペテルブルグ放射線医学研究所のV・ラムザエフ氏が、チェルノブイリ事故に伴う立入制限地域の浄化試験について発表を行い、一九九五〜二〇一二年のモニタリングで、十五年以上の長期安定性が示され、成果は生態系の回復にも現れていることなどを説明した。

### フィルタ・ベントで協力合意

#### 日立GEE・アレバ

日立GEEとアレバは、福島第一原発の格納容器フィルタ・ベント設備の設計・製作・設置に関する協力で合意したと発表した。海外で五十基以上の設置実績を持つ

つアレバ社の格納容器フィルタ・ベント設備に関するノウハウを、日立GEEが採用するもの。

現職・川勝氏が二選果たす 静岡県知事選 任期満了に伴う静岡県知事選が十六日に行われ、無所属で現職の川勝平太氏(64歳)が二回目の当選を果たした。

投票結果(選管確定) 当 川勝平太氏 百八万六千九百票 広瀬一郎氏 三十四万五千六百七十七票 島津幸広氏 六万九千八百八十票

「組織加重係数(標準人)」

| 組織・臓器    | 組織加重係数          |                |                |
|----------|-----------------|----------------|----------------|
|          | ICRP103 (2007年) | ICRP60 (1990年) | ICRP23 (1977年) |
| 生殖腺      | 0.08            | 0.2            | 0.25           |
| 赤色骨髄、肺   | 各0.12           | 各0.12          | 各0.12          |
| 結腸、胃     | 各0.12           | 各0.12          | 項目なし           |
| 乳房       | 0.12            | 0.05           | 0.15           |
| 甲状腺      | 0.04            | 0.05           | 0.03           |
| 肝臓、食道、膀胱 | 各0.04           | 各0.05          | 項目なし           |
| 骨表面      | 0.01            | 0.01           | 0.03           |
| 皮膚       | 0.01            | 0.01           | 項目なし           |
| 唾液腺、脳    | 各0.01           | 項目なし           | 項目なし           |
| 残りの組織・臓器 | 0.12            | 0.05           | 0.3            |

加重係数)をかけることによって換算(厳密に言いますと、実効線量は、生殖腺や肺などの臓器についても同じように等価線量を求めて、その後足し合わせたものと定義される)が、放射線ヨウ素は甲状腺に溜まる性質があるため、他の臓器の影響は無視できます。ICRPの最新の勧告(二〇〇七年)によれば、甲状腺に対する組織加重係数は、〇・〇四となっている。そうすると、甲状腺等価線量で八十二mSvという数値は、実効線量で三・二八(八十二×〇・〇四)mSvという数値に書き換えることができるのです。

「損傷」を考慮して、甲状腺等価線量にICRPが勧告した「組織加重係数」をかけることによって、甲状腺等価線量で八十二mSvという数値は、実効線量で三・二八(八十二×〇・〇四)mSvという数値に書き換えることができるのです。